2025年3月30日（日）第二礼拝「感謝の奇蹟」ヨハネ6章4～13節

イエス様はガリラヤの地で多くの人を癒し、福音を宣べ伝えておられました。過越しが間近になっていた頃、男性だけで五千名、女性と子どもを含めると約二万名の人々が、エルサレムではなく、イエス様の所に集まって来ました。そこで、エス様は、アンデレが持って来た少年の小さなお弁当(五つのパンと二匹の魚)を祝福し、それによって二万名の人々を満腹にし、その残ったパン切れを集めると十二かごとなりました。

第一番目、感謝の奇蹟です。感謝は奇蹟を生み出します。聖霊が少年の心を動かし、少年は自分の小さなお弁当をイエス様に捧げるためにアンデレに託します。それを見たイエス様は、ピリポに「どこからパンを買って来て、この人々に食べさせようか。」と聞きました。その時、ピリポは、「めいめいが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンではたりません。」と答えます。そこで、イエス様は少年のお弁当を祝福され、二万名の人々に分けていきました。そして、人々は十分に食べて満腹し、その残ったパンを集めると十二かごとなりました。少年のイエス様への感謝の捧げものが、このような大きな奇蹟を生み出したのです。

第二番目、感謝は光です。人間関係にも暗やみがあります。それは、上司と部下の関係、夫婦関係、親子関係におけるストレスなど様々です。そのような状況にあっても、「感謝します」と言うなら、奇蹟が起こります。「感謝の力」の著書デボラ・ノビルさんは、その本の中で「感謝します」という0.3秒の言葉が奇蹟を起こし、人間関係を良くし、体を健康にすると言っています。感謝をする時、暗やみに光が差し、無から有を生み出します。創世記において、主は「光があれ」と仰せられました。すると、暗やみに光ができ、主はその光を見て良しとされました。私たちが不平不満を言うならば、状況を暗くしますが、逆に感謝をするなら、そこに光が差し、悪い状況が一変するのです。「感謝のいけにえをささげる人は、わたしをあがめよう。その道を正しくする人に、私は神の救いを見せよう。」(詩篇50：23)

第三番目、感謝は癒しです。「感謝します」と言うところに癒しが起こります。不平不満を言うなら、神様との関係や人との関係が悪くなり、体を悪くします。しかし、神様に感謝し、人に感謝し、食べ物を含め全てのことに感謝をするなら、状況は一変し、癒しが起こり、全てが良くなります。戦後、日本の海軍将校だった川上氏が、自分の故郷に帰った後、戦争に負けたことへの怒りが湧き上がり、その怒りが彼の体を麻痺させました。麻痺になったことで、ますます不平不満が増えました。その後、川上氏は藤田という精神科医と出会い、「毎晩、無理にでも『感謝します』と千回言いなさい。」と言われます。彼はこれを毎日実行していきました。ある時、彼の息子が柿を持ってきましたが、彼は手を伸ばしてその柿を掴むことができました。彼の手は動いたのです。更に座位や歩行も可能となりました。彼は感謝しながら癒されたのです。感謝は癒しです。イエス様は死んで四日も経つラザロの墓前で、神様に感謝を捧げました。その感謝によってラザロはよみがえりました。感謝は人を癒し、回復させるのです。アーメン！